

福病監発第12号
令和3年9月27日

福生病院企業団
企業長 松山 健 様

福生病院企業団
監査委員 渡 辺 晃

監査委員 下 野 義 子

令和2年度福生病院企業団病院事業決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、福生病院企業団病院事業決算
について審査した結果、別紙のとおり意見を付します。

令和2年度福生病院企業団病院事業決算審査意見書

1 審査の対象

令和2年度福生病院企業団病院事業決算

2 審査の期日及び実施場所

令和3年8月27日（金） 公立福生病院2階大会議場

3 審査の着眼点

決算計数の正確性、財務諸表の適正性、決算内容の妥当性（経営活動が合理的かつ能率的に行われているか）等。

4 審査の主な実施内容

既に実施済の例月出納検査の結果も踏まえ事務長及び経理課職員による説明を聴取して審査を実施した。

5 審査の結果

審査に付された決算、証書類、事業報告書、その他の書類は、いずれも関係法令に基づき作成されており、適正に表示しているものと認められた。

また、予算の執行は、おおむね適正に執行されているものと認められた。

6 審査意見

新型コロナウイルス感染症は依然として収束の見通しが立たず、住民生活にも深刻な影響が生じている。引き続き、病床の確保や入院・転院の調整、近隣医療機関を含む多職種協働の取組などを積極的に進め、日常の地域医療と新型コロナウイルス感染症医療との両立を図られたい。

業務実績については、入院患者数、外来患者数及び病床稼働率が前年度を3年連続ですべて下回った。経常収支では感染症拡大に伴う受診控えや患者の受入制限などにより医業収益が減少した一方で、感染症に係る補助金の交付及び構成市町からの特別支援金により医業外収益が増加し、収益の総額は増加した。医業費用においても感染症対応に伴い職員手当や検体検査委託料が増加したものの、患者数の減による薬品などの材料費が減少し、費用の総額は減少した。結果として1億6,935万8,476円の純利益が生じたが、感染症に係る補助金の受領がその主因である。

資金収支では、投資・財務活動項目でキャッシュ・フローが低下したが、収入の根幹である業務活動は当年度純利益が計上されたことから増加した。これにより年度末の資金残高は11億3,417万1,613円となり、対前年比1億7,945万7,089円の増加となった。

令和2年度は「公立福生病院改革プラン」の最終年度であったが、逼迫する感染症対応に追われ当初の基本想定とは相当な乖離が生じた。国から「次期改革プラン」の方向性は未だ示されていないため、地域医療体制の維持を最優先とした上で現状に即した経営判断を行うよう進言したい。

新型コロナウイルス感染症の拡大は病院経営に様々な課題を呈し、翻弄される日々が続いている。職員も常に危険と隣り合わせであって相当な労苦を強いられる状況の中、地域社会への医療貢献に心より感謝申し上げる。同時に病院経営的視点からは、ウィズコロナを見据えた経営を意識しつつ、企業長の下、職員一丸となりさらなる経営努力に励むことを殊に要望する。

7 審査の概要

(1) 業務実績

入院・外来とも患者一人一日当たりの診療収入単価は増額となったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う受診控えや患者の受入制限などにより患者数が減少した。

区 分	令和2年度	令和元年度	比較増減	増減比率
年間延患者数				
入院	65,917人	82,141人	△16,224人	△19.8%
外来	153,624人	171,415人	△17,791人	△10.4%
患者一人一日当たりの診療収入単価				
入院	56,205円	51,992円	4,213円	8.1%
外来	14,084円	13,157円	927円	7.0%
救急診療患者数	9,427人	6,830人	2,597人	38.0%

(2) 収益的収支（税抜き）

病院事業収益では、医業収益が減額となった。患者一人一日当たりの診療収入単価は増額したものの、新型コロナウイルス感染症に係る診療制限などにより患者数が減少したことによるものである。また、病院事業費用では感染症に係る職員手当の発生、検体検査委託の増加などの増額要因と、患者数の減少に伴う材料費の減額などの減額要因があるなかで医業費用が減額となった。

その結果、当年度は1億6,935万8,476円の純利益を計上した。これは医業外収益として感染症に係る補助金の交付を受けたことが大きく影響している。

区 分	令和2年度	令和元年度	比較増減	増減比率
病院事業収益	8,977,958,541円	8,236,850,966円	741,107,575円	9.0%
医業収益	6,036,670,719円	6,736,617,154円	△699,946,435円	△10.4%
医業外収益	2,937,607,621円	1,496,334,408円	1,441,273,213円	96.3%
特別利益	3,680,201円	3,899,404円	△219,203円	△5.6%
病院事業費用	8,808,600,065円	8,882,467,481円	△73,867,416円	△0.8%
企業団管理費	31,343,446円	1,861,855円	29,481,591円	1,583.5%
医業費用	8,321,404,986円	8,430,776,002円	△109,371,016円	△1.3%
医業外費用	455,851,633円	449,829,624円	6,022,009円	1.3%
特別損失	0円	0円	0円	-
当期純利益	169,358,476円	△645,616,515円	814,974,991円	126.2%

(3) 資本的収支（税込み）

病院建設事業債の償還、医療機器等を医療機器等更新計画に基づき更新した結果、資本的収支はマイナス4億2,891万6,786円となった。

区 分	令和2年度	令和元年度	比較増減	増減比率
資本的収入	555,988,500円	726,981,000円	△170,992,500円	△23.5%
企業債	70,400,000円	355,800,000円	△285,400,000円	△80.2%
他会計補助金	160,588,000円	157,370,000円	3,218,000円	2.0%
都補助金	155,472,000円	48,078,000円	107,394,000円	223.4%
他会計負担金	169,019,000円	165,692,000円	3,327,000円	2.0%
その他投資	509,500円	41,000円	468,500円	1,142.7%
資本的支出	984,905,286円	1,095,144,896円	△110,239,610円	△10.1%
建設改良費	191,528,183円	357,398,042円	△165,869,859円	△46.4%
企業債償還金	793,230,103円	737,465,854円	55,764,249円	7.6%
その他投資返還金	147,000円	281,000円	△134,000円	△47.7%
翌年度繰越額に係る 財源充当額	1,538,000円	0円	1,538,000円	皆増
収支差引	△430,454,786円	△368,163,896円	△62,290,890円	△16.5%

(4) キャッシュ・フロー

年度末の資金残高は、人件費や経費支出の増加及び企業債償還金の増加があったものの、当年度純利益が1億6,935万8,476円計上されたことにより対前年度比1億7,945万7,089円の増額となった。

区 分	令和2年度	令和元年度	比較増減	増減比率
業務活動キャッシュ・フロー	590,962,222円	△179,080,746円	770,042,968円	430.0%
投資活動キャッシュ・フロー	△173,754,030円	△329,413,670円	155,659,640円	47.3%
財務活動キャッシュ・フロー	△237,751,103円	△10,525,854円	△227,225,249円	△2,158.7%
資金増減額	179,457,089円	△519,020,270円	698,477,359円	134.6%
年度期首資金残高	954,714,524円	1,473,734,794円	△519,020,270円	△35.2%
年度末資金残高	1,134,171,613円	954,714,524円	179,457,089円	18.8%